

第1回 都市交通調査の深度化に向けた検討委員会
議事概要

日 時：令和4年10月21日（金）16:00-18:00

場 所：オンライン

主な議論の概要は以下の通り

1) 都市交通調査の深度化に向けた検討委員会設置について

- ・ 規約について了承された。

2) 検討の全体像及び今年度の検討事項

- ・ 新型コロナを契機とした近年の行動変容を踏まえ、都市圏の交通評価をする上で、アクティビティベースドモデル（以下、ABM）のアウトプットデータとして、店舗購入から自宅でオンライン購入するようになった等の移動を伴わなくなった活動を表現するのは困難であるが、在宅勤務の有無は表現されるべきである。
- ・ 在宅勤務はコロナ禍を契機に急拡大したが、対面に戻るような変動も見られる。また、都心・近郊外・遠郊外で変動の様子が異なると考えられる。ポストコロナにおける活動を把握する際は、こうした変動の影響を考慮し観察したほうがよい。
- ・ 行動・活動の変化に伴い、ウェルビーイングや幸福度が変化していることが考えられる。ABMでこれらを表現することは難しいが、これらを評価ができるように工夫できるとよい。
- ・ ABMの検討方針としては、まずはベースとなるモデルを作り、さらに他都市に展開するときに地域性を考慮できるようにする方が良いのでは。地方都市に共通する交通の政策課題を整理して、その政策課題が評価可能かを検討することで、モデルの必要要件が検討できるのではないか。
- ・ ABMは、区画整理事業や再開発事業の評価や地方の拠点評価などに活用できるのではないか。都市計画基礎調査などを活用し、過去の区画整理事業、再開発事業などをゾーンの説明変数とすることも検討すべきである。
- ・ 国勢調査などの全体像をつかめているデータを用いて、都市の特性に応じて分類や補正ができるとよい。都市類型は、人口や政策ニーズ等を考慮し類型化できるとよい。
- ・ ABM単体だと現況の人の活動・移動等の再現は難しいため、サンプル数が多い他調査結果や過年度の全国PT調査結果、周辺状況データ等を組み合わせることも検討すべきである。

3) 今後の検討の進め方

- ・ 今後の検討の進め方について了承された。

以上